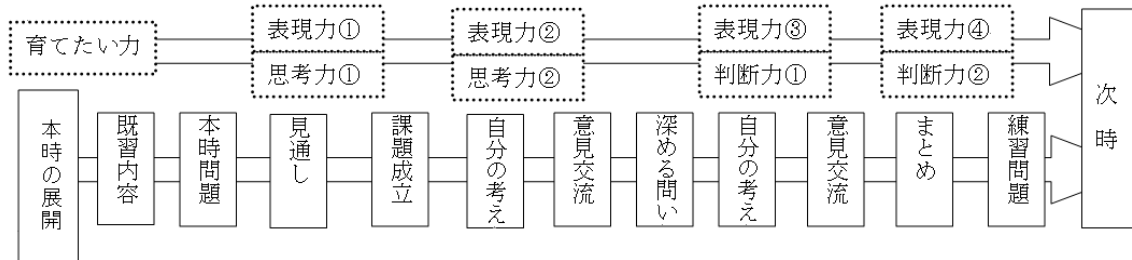


【演習 1】授業観察および授業記録のとり方について

授業観察の視点：思考，判断，表現する場はあるか？



○導入から課題成立まで

- ・既習と既有経験の振り返り⇒「できる」「わかる」の確認
- ・未習との出会い⇒「できない」「はっきりしない」の確認
- ・既習と未習との相違点⇒「なぜ困っているのか」を明確化
- ・未習を解決するための見通し⇒「〇〇すればできそう」課題成立後に必ず考えがかけられる

○意見交流から深める問いまで

- ・指名順を机間指導の間に選定する。⇒記録の重要性，小数派⇔多数派
- ・考えの交流⇒本人の発表のみでなく他児による説明，教師が価値づけをしない，  
判断は子どもが行う，教師がしゃべりすぎない  
「そうだね」は言わない。「どうして」「説明できる」「賛成できる」「どう思う？」
- ・考えの異同から層に分ける⇒2つを比較してのネーミング
- ・深める問い⇒「〇〇か△△か」「〇〇でよいか」「〇〇は使えるか」「△△ではいけないのか」  
新たな方法やエラー問題などを提示することで子どもたちが主体的に考え出す。  
立場をはっきりさせ自分の考えを必ず持たせる。ペアやグループ活動の有効性

○まとめから活用まで

- ・まとめは，子どもに思考・判断・表現させる  
⇒教師がすべて書かない。( ) 埋めにする。キーワードは板書に位置づけておく  
⇒子どもの発言を活かしてまとめを行う

※授業時間（45 分，50 分）を守る。⇒終了 10 分前に終末を想定する

授業記録のとり方：①授業全体記録（教師の支援・発言，子どもの活動・発言）

⇒授業をすべて記録

②授業個人記録（教師の支援・発言，1 人の子どもの活動・発言）

③教師の支援の有効性および子どもの発言記録

⇒教師の支援の有効性，それにつながる子どもの発言などをメモする

平成 28 年度 臼杵市授業実践学習会

平成 28 年 8 月 3 日  
臼杵市役所 101, 102

【演習 2】指導案作成の手順

本時案

- (1) 題目 「課題と連動」  
 (2) 主眼 ~を (追求対象：「課題」と連動)  
 ~ことにより (手立て：「課題」解決へ向けた活動や着眼点 (考えの層))  
 ~できる。 (到達像：「課題」解決の具体的な姿, つけたい力と連動)  
 (3) 展開

学習活動	時	教師の支援	評価規準 (評価方法)
1 導入	5分		
2 課題	単位で 記入	課題 まとめと連動したもの	
3 深める問い	※1分 3分でもよい が…	深める問い	
4 まとめ		まとめ 課題と連動したもの	
5 活用		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     ○○させる。                      考えさせる。                      交流させる                      まとめさせる。など                 </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     1時間に1評価                      2つの評価は…                 </div>

- 子どもの考え(着眼点)を明らかにする
- 必要な支援(手立て)を可能な限り記載する
- 「もし, ○○が出ない場合」も想定して, 本時案に明記する